

中学生のインターネットの利用状況と依存傾向に関する調査
(概要)

平成28年6月

総務省情報通信政策研究所

1 調査実施概要

調査の目的

- 近年、中学生にもスマートフォンが急速に普及しつつあり、ネットワークを介して動画やゲーム、ソーシャルメディアといった各種サービスへのアクセスが容易になっており、ネット利用の長時間化、ネット依存傾向の低年齢化が懸念されている。

このため、総務省情報通信政策研究所では、東京大学情報学環 橋元良明教授ほか※と共同で、横浜市の協力を得て、横浜市内の中学校を対象として調査研究を実施した。本調査研究は、インターネット利用の実態、友人関係や保護者との関係等を分析することによりインターネット依存傾向の実態やその背景を明らかにすることを目的としている。

※ 大野志郎氏(立教女学院短期大学現代コミュニケーション学科助教)、天野美穂子氏(東京大学大学院学際情報学府博士課程 橋元研究室在籍)、堀川裕介氏(東京大学大学院学際情報学府博士課程 橋元研究室在籍)

調査の概要

- 横浜市の協力を得て、市内の公立中学校を対象に調査を実施。
 - 調査対象校：横浜市内の公立中学校148校(81,279人)のうち22校(11,589人)で実施(括弧内は生徒数の合計)
(横浜市教育委員会事務局を通じて調整を行い、調査への協力が同意が得られた22校を対象に実施)
 - 調査手法：無記名自記式質問紙調査
(株)山手情報処理センターにおいて、対象の中学校へ一括して調査票を郵送し、回収は学校から一括して返送
 - 調査対象者：各中学校において全学年、全クラスを対象として実施
 - 有効回答数：合計 10,596票(1年生:3,550票、2年生:3,636票、3年生:3,410票)
 - 調査期間：平成27年2月18日～3月13日

2 インターネット依存傾向① ～計測手法～

インターネット依存傾向の計測手法

◆ インターネット依存尺度を用いた判定

- 「ネット依存傾向」については、米国の心理学者キンバリー・ヤング博士の提唱した20項目のインターネット依存尺度(1998年)を参考に、ソーシャルメディアの普及に応じた文言に修正し、中学生向けに記述を調整※したものを活用した。ヤング博士の手法に従い、それぞれの項目の点数の合計(100点～20点)に応じて、依存傾向を「高」(70点以上)、「中」(69点～40点)、「低」(39点～20点)の3段階に分類して判定を行った。

◆ 手法の課題

- スマートフォンやソーシャルメディアの普及など情報環境の変化が急速であるため、尺度の項目選択や文章表現等については時代に応じて見直しを行う必要がある。
 - ・ 例えば、「気がつくと思っていたより長い時間ネットをしていることがある」の項目は、「いつもある」、「よくある」、「ときどきある」と回答した割合(合計)は78.0%となっており、もはや利用形態としては一般化していることを示すものであり、依存傾向の尺度として適切であるか疑問があるものと考えられる。
 - ・ 他方、尺度とは別に新たに追加した「自分の身近にケータイが無いと落ち着かない」、「友だちからのメッセージが気がかりでネットを常に確認している」の項目は、「いつもある」、「よくある」、「ときどきある」と回答した割合(合計)が、全体では、それぞれ26.7%、20.8%であるのに対して、依存傾向「高」では、それぞれ75.8%、65.0%と約3倍となっていることは注目に値する。
 - ・ 依存尺度の時代適合性を高めるためには、より利用実態に即した項目や日常生活への実害の有無などの項目を加える等の検討が必要ではないかと考えられる。

※ Young, K S., Caught in the Net: How to Recognize the Signs of Internet Addiction and a Winning Strategy for Recovery (1998)を参考に東京大学大学院情報学環 橋元研究室と調整

2 インターネット依存傾向② ～評価尺度～

ネット依存傾向の評価尺度

- ◆ 以下の各項目について「いつもある」(5点)、「よくある」(4点)、「ときどきある」(3点)、「めったにない」(2点)、「まったくない」(1点)の5つの選択肢の評点を合算して得点化。
- ◆ ヤング博士の手法に従い、「70点以上」(ネット依存傾向「高」)、「40-69点」(ネット依存傾向「中」)、「20-39点」(ネット依存傾向「低」)に分類。

1. 気がつくとき、思っていたより長い時間ネットをしていることがある
2. ネットを長く利用していたために、家の手伝い(炊事、掃除、洗濯など)をおろそかにすることがある
3. 家族や友だちと過ごすよりも、ネットを利用したいと思うことがある
4. ネットで新しく知り合いを作ることがある
5. 周りの人から、ネットを利用する時間や回数について文句を言われたことがある
6. ネットをしている時間が長くて、学校の成績が下がっている
7. ネットが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある
8. 他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディア(LINE、Twitterなど)やメールをチェックすることがある
9. 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、言い訳をしたり、隠そうとしたりすることがある
10. 日々の生活の問題から気をそらすために、ネットで時間を過ごすことがある
11. 気がつけば、また次のネット利用を楽しみにしていることがある
12. ネットのない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある
13. ネットをしている最中に誰かに邪魔をされると、イライラしたり、怒ったり、言い返したりすることがある
14. 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている
15. ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある
16. ネットをしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある
17. ネットをする時間や回数を減らそうとしても、できないことがある
18. ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある
19. 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある
20. ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂うつな気持ちになったりする

(注) 「ネット依存」が精神的病理に該当するか否かについては様々な議論があり、ヤング基準で依存傾向「高」に分類された者について、必ずしも医学的な治療が必要な者であるとは限らない。

3 調査結果の要旨①

1 中学生のインターネットの利用状況

- ◆ 機器別にみたネット利用時間は、スマートフォン(125.7分)が他の機器(パソコン、ガラケー、タブレット端末)と比べて最も長い。【調査結果概要2参照】
 - いずれの機器についても、学年が上がるほどネット利用時間が長く、パソコン、タブレット端末については男子が、スマートフォン、ガラケーについては女子の利用時間が長い。
- ◆ ネット利用のメリットとして、「ネットでわからないことをすぐに調べられるので、時間を効率的に使えるようになった」(76.1%)が最も多く、次いで「いろいろな情報を収集できるので知識が増えた」(55.8%)、「今まで知らなかったことでも簡単に調べられるので世界が広がった」(52.8%)が多い。【調査結果概要3参照】
- ◆ ネット利用により減少した時間は「睡眠時間」(-23.3分)が最も長く、次いで「テレビを見る時間」(-8.6分)が長い。【調査結果概要4参照】
- ◆ 全体の80.8%がソーシャルメディア※を利用している。【調査結果概要5参照】
 - 学年が上がるほどソーシャルメディアを利用している割合が高く、女子(81.3%)の方が男子(79.4%)よりも割合が高い。
- ◆ ソーシャルメディアでよくやり取りするのは、「同じ学校の友だち」(24.7人)が最も多く、次いで「ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし、実際には会ったことのない友だち」(18.6人)が多い。【調査結果概要6参照】
 - 学年が上がるほど「ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし、実際には会ったことのない友だち」の人数が多い(1年生:15.7人、2年生:17.6人、3年生:22.3人)。

※ ソーシャルメディア:LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、mixi(ミクシィ)などを指す。

3 調査結果の要旨②

2 インターネット依存傾向が高い中学生の特徴

◆ ネット依存傾向「高」の割合は5.7%。【調査結果概要1参照】

- 依存傾向「高」は、学年が下がるほど割合がやや高い傾向(1年生:6.4%、2年生:5.5%、3年生:5.1%)となっている。
- ソーシャルメディア利用者のうち依存傾向「高」に該当する割合(7.1%)は、非利用者で「高」に該当する割合(1.5%)に比べて顕著に高い。

◆ 依存傾向「高」の中学生は、ネット利用によるメリットを享受していると認識している割合が高い。【調査結果概要3参照】

- 依存傾向「高」は、全体に比べ特に「生活が楽しくなった」(依存傾向「高」76.2%、全体45.9%)、「いろいろな情報を知ることができるので、友だちとの話題が増えた」(依存傾向「高」58.4%、全体39.2%)の割合が高い。

◆ 依存傾向「高」の中学生は、ソーシャルメディア上だけでやり取りする相手が多い。しかしその反面、ソーシャルメディアを利用する際に悩みや負担を感じる割合が高い。【調査結果概要6及び調査結果概要7参照】

- 依存傾向「高」は、「ソーシャルメディア上で初めて知り合い、実際に会ったこともある友だち」(4.8人)は全体(2.0人)の2倍以上、「ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし、実際には会ったことのない友だち」(60.3人)は全体(18.6人)の3倍以上となっている。
- 一方、「友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと」(依存傾向「高」40.5%、全体24.4%)、「ソーシャルメディア内の人間関係」(依存傾向「高」38.5%、全体19.0%)などソーシャルメディア利用する際に悩みや負担を感じる項目の割合が高い。

◆ 依存傾向「高」の中学生は、ネットを使い始める前に比べて、睡眠時間や家族と話をする時間が減少し、ネットのしすぎが原因で様々な生活への影響を経験している。【調査結果概要4及び調査結果概要8参照】

- 依存傾向「高」は、ネットを使い始める前に比べ、「睡眠時間」(-68.0分)、「テレビを見る時間」(-31.7分)、「家族と顔を合わせて話をする時間」(-25.9分)が大きく減少している。
- 「ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている」(依存傾向「高」40.6%、全体7.4%)、「ネットのしすぎが原因で、試験に失敗したことがある」(依存傾向「高」35.2%、全体9.9%)、「ネットのしすぎが原因で、身体的な健康を損ねたことがある」(依存傾向「高」33.6%、全体7.9%)、などネット利用による生活への影響の割合が全体の数倍高くなっている。

調 查 結 果 概 要

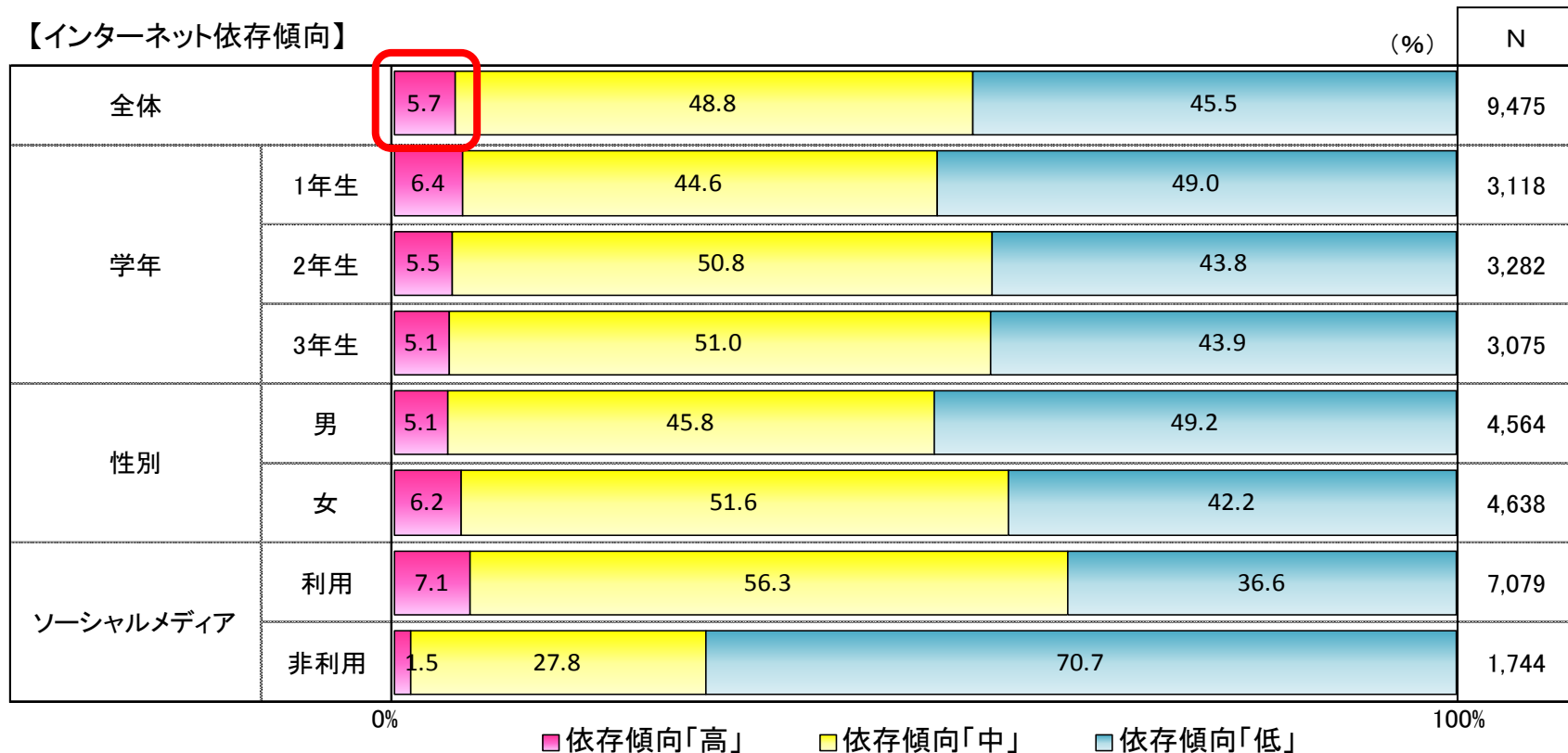
<概要1> インターネット依存傾向 ～中学生のネット依存傾向の判定結果①～

◆ ネット依存傾向「高」の割合は5.7%。

- 依存傾向「高」は、学年が下がるほど割合がやや高い傾向(1年生:6.4%、2年生:5.5%、3年生:5.1%)となっている。
- 依存傾向「高」は、女子(6.2%)の方が男子(5.1%)よりも割合がやや高い傾向となっている。

◆ ソーシャルメディアを利用している生徒は利用していない生徒に比べてネット依存傾向が高い。

- ソーシャルメディア利用者のうち依存傾向「高」に該当する割合(7.1%)は、非利用者で依存傾向「高」に該当する割合(1.5%)に比べて顕著に高い。



(注) ソーシャルメディアとは、LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、mixi(ミクシィ)などを指す。

※ 分析母数は有効回答数全体(ただし、DK、NAを除いて集計)。
 ※ 四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合がある。

<概要2> 中学生の機器利用 ～機器ごとのネット利用時間～

◆ ネット利用時間は、スマートフォン(125.7分)が他の機器と比べて最も長時間となっている。

- いずれの機器についても、学年が上がるほどネット利用時間が長く、パソコン、タブレット端末については男子が、スマートフォン、ガラケーについては女子の利用時間が長い。
- いずれの機器についても、ネット依存傾向が高いほどネット利用時間が長い。特に、スマートフォンについては、依存傾向「高」は、250.7分で全体の約2倍となっている。

◆ ソーシャルメディア利用者は、スマートフォンによるネット利用時間(158.1分)が非利用者の利用時間(24.8分)に比べて顕著に長い。

【機器ごとのネット利用時間】

		パソコン		スマートフォン		ガラケー		タブレット端末	
			(N)		(N)		(N)		(N)
全体		40.2	9,505	125.7	9,986	15.5	9,425	38.1	9,301
学年	1年生	34.2	3,190	105.2	3,340	13.2	3,184	36.2	3,132
	2年生	39.3	3,295	110.6	3,430	13.8	3,248	38.0	3,224
	3年生	47.6	3,020	163.0	3,216	19.7	2,993	40.2	2,945
性別	男	44.1	4,594	111.3	4,801	12.5	4,521	41.2	4,473
	女	35.5	4,596	135.6	4,839	18.1	4,613	34.8	4,523
ネット依存傾向	高	95.5	492	250.7	509	24.0	487	70.7	485
	中	45.6	4,181	155.8	4,427	16.3	4,121	45.9	4,103
	低	25.5	3,882	71.4	4,050	12.8	3,914	24.4	3,809
ソーシャルメディア	利用	40.8	7,086	158.1	7,546	15.0	6,977	42.1	6,931
	非利用	38.3	1,720	24.8	1,731	16.8	1,738	26.1	1,696

(注) ガラケー:スマートフォン以前の型の携帯電話(PHSを含む)。

※ 分析母数は有効回答数全体。

※ DK、NAを除いて集計しているため項目ごとのN数は異なる。

<概要3> 中学生のネット利用 ～ネット利用によるメリット～

◆ ネット利用によるメリットとして、「ネットで見られないことをすぐに調べられるので、時間を効率的に使えるようになった」(76.1%)が最も多く、次いで「いろいろな情報を収集できるので知識が増えた」(55.8%)、「今まで知らなかったことでも簡単に調べられるので世界が広がった」(52.8%)が多い。

➢ 依存傾向「高」は、全体に比べて特に「生活が楽しくなった」(依存傾向「高」76.2%、全体45.9%)、「いろいろな情報を知ることができるので、友だちとの話題が増えた」(依存傾向「高」58.4%、全体39.2%)の割合が高い。

【ネット利用によるメリット】

		ネットで見られないことをすぐに調べられるので、時間を効率的に使えるようになった	ネットを通じて友だちに質問したり、質問サイトでわからないことを簡単に尋ねることができるので、勉強がはかどるようになった	ネット上の辞書サイトを使って、英語や国語の勉強がはかどるようになった	ネット上の教材(動画やアプリなど)を使って楽しく勉強できるようになった	いろいろな情報を収集できるので知識が増えた	今まで知らなかったことでも簡単に調べられるので世界が広がった	よくニュースに触れるようになった	情報を受け取るだけでなく、自分からも発信できるようになった	いろいろな情報を知ることができるので、友だちとの話題が増えた	生活が楽しくなった	あてはまるものはない	N
全体		76.1%	27.5%	40.6%	19.4%	55.8%	52.8%	35.3%	14.2%	39.2%	45.9%	8.1%	9,713
学年	1年生	74.5%	28.2%	38.2%	20.2%	50.9%	50.8%	33.4%	13.7%	39.4%	48.8%	10.5%	3,214
	2年生	79.2%	28.9%	43.8%	20.3%	57.6%	54.8%	36.1%	14.0%	40.6%	46.9%	6.5%	3,357
	3年生	74.4%	25.4%	39.7%	17.7%	58.8%	52.7%	36.4%	14.7%	37.7%	42.0%	7.3%	3,142
性別	男	73.6%	25.4%	34.9%	17.0%	53.2%	49.7%	35.9%	12.8%	36.0%	44.8%	10.7%	4,622
	女	78.6%	29.4%	46.4%	21.6%	58.7%	56.0%	34.8%	15.3%	42.4%	47.1%	5.5%	4,819
ネット依存傾向	高	78.4%	45.7%	49.3%	27.3%	70.1%	71.3%	39.6%	34.7%	58.4%	76.2%	2.8%	495
	中	81.1%	33.3%	47.3%	22.7%	63.5%	61.9%	37.9%	18.6%	48.8%	58.2%	2.9%	4,368
	低	70.5%	18.3%	32.6%	14.8%	45.7%	40.8%	32.3%	6.2%	26.2%	27.9%	14.6%	3,991

(注) ネットの利用とは、メール、ソーシャルメディア、動画サイト、ニュース、ブログ、ホームページ、ゲームなどネットにつながるあらゆるサービス・アプリの利用を指し、スマートフォン、ガラケー、パソコン、タブレット端末などどのような機器を使う場合も含む。

※ 分析母数は有効回答数全体(ただし、DK、NAを除いて集計)。

<概要4> 中学生のネット利用 ～ネット利用による生活への影響等～

◆ ネット利用により減少した時間は「睡眠時間」(-23.3分)が最も長く、次いで「テレビを見る時間」(-8.6分)が長い。

➢ 依存傾向「高」は、ネットを使い始める前に比べて、「睡眠時間」(-68.0分)、「テレビを見る時間」(-31.7分)、「家族と顔を合わせて話をする時間」(-25.9分)が大きく減少している。

【ネット利用による生活への影響】

(分)

		平日、睡眠や食事などを除いて家で過ごす時間	通学にかかる時間	部活動の時間	学習塾や習い事の時間	自宅で勉強する時間	本を読む時間	テレビを見る時間	睡眠時間	家族と顔を合わせて話をする時間
全体		12.6	0.7	7.2	7.9	3.4	0.4	-8.6	-23.3	-1.5
学年	1年生	13.8	1.1	19.4	8.8	3.2	-0.5	-8.5	-23.7	-0.5
	2年生	8.9	0.5	8.7	11.4	4.2	0.8	-9.0	-24.8	-2.5
	3年生	15.5	0.4	-7.8	3.2	2.6	0.8	-8.3	-21.2	-1.5
性別	男	16.0	0.6	6.1	8.1	3.7	1.4	-5.1	-19.6	-0.6
	女	9.0	0.7	8.3	7.7	3.0	-0.7	-12.4	-27.0	-2.7
ネット依存傾向	高	16.1	-0.1	4.1	5.7	-7.0	-5.5	-31.7	-68.0	-25.9
	中	5.1	0.3	4.7	6.8	1.0	-1.4	-15.9	-29.9	-6.1
	低	20.7	1.2	9.8	9.0	7.5	3.1	1.4	-11.0	5.5

(注) 各項目の数字(時間)は、「ネットを使い始める前」と「普段(現在)」の時間の差分により算出したもの。

<概要5> ソーシャルメディアの利用状況 ～利用の有無～

◆ 全体の80.8%がソーシャルメディアを利用している。

- 学年が上がるほどソーシャルメディアを利用している割合が高く、女子(81.3%)の方が男子(79.4%)よりも割合が高い。
- ネット依存傾向が高いほどソーシャルメディアの利用割合は高い。特に、依存傾向「高」においては94.9%と非常に高い。ただし、依存傾向「低」でも67.7%と多くの生徒(約2/3)が利用しており、ソーシャルメディアの利用が進んでいることがうかがえる。

【ソーシャルメディアの利用状況】

		(%)	N
全体		80.8%	9,796
学年	1年生	75.4%	3,181
	2年生	81.0%	3,395
	3年生	86.1%	3,220
性別	男	79.4%	4,672
	女	81.3%	4,761
ネット依存傾向	高	94.9%	527
	中	89.2%	4,473
	低	67.7%	3,823

■ ソーシャルメディアを利用している ■ 利用していない

※ 分析母数は有効回答数全体(ただし、DK、NAを除いて集計)。

<概要6> ソーシャルメディアの利用状況 ～よくやり取りする相手(人数)～

◆ ソーシャルメディアでよくやり取りするのは、「同じ学校の友だち」(24.7人)が最も多く、次いで「ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし、実際には会ったことのない友だち」(18.6人)が多い。

- 学年が上がるほど「ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし、実際には会ったことのない友だち」の人数が多い(1年生:15.7人、2年生:17.6人、3年生:22.3人)。
- ネット依存傾向が高いほど「家族」を除き、ソーシャルメディアでやり取りする人数がやや多い傾向となっている。特に、依存傾向「高」は、「ソーシャルメディア上で初めて知り合い、実際に会ったこともある友だち」(4.8人)は全体(2.0人)の2倍以上、「ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし、実際には会ったことのない友だち」(60.3人)は全体(18.6人)の3倍以上となっている。
また、依存傾向「高」は、やり取りする相手として、会ったことのない友人(ソーシャルメディアだけでやり取りする友人)の人数の方が顔見知り(リアルな友人)の人数よりも多い傾向となっている。

【ソーシャルメディアでよくやり取りする相手(人数)】

		家族		同じ学校の友だち		学校外の活動を通じて知り合った友だち		ソーシャルメディア上で初めて知り合い、実際に会ったこともある友だち		ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし、実際には会ったことのない友だち	
		(人)	(N)	(人)	(N)	(人)	(N)	(人)	(N)	(人)	(N)
全体		2.1	7,540	24.7	7,365	9.6	7,341	2.0	7,353	18.6	7,357
学年	1年生	2.3	2,276	29.2	2,230	10.6	2,234	2.1	2,212	15.7	2,215
	2年生	2.1	2,614	23.6	2,577	9.3	2,558	2.0	2,567	17.6	2,566
	3年生	2.0	2,650	21.9	2,558	9.0	2,549	1.9	2,574	22.3	2,576
性別	男	2.0	3,511	25.7	3,436	10.3	3,418	2.1	3,411	16.8	3,420
	女	2.2	3,715	23.6	3,645	8.6	3,631	1.8	3,645	20.3	3,642
ネット依存傾向	高	2.0	484	28.6	473	12.0	478	4.8	474	60.3	470
	中	2.1	3,822	25.4	3,749	9.6	3,734	2.2	3,733	20.0	3,748
	低	2.1	2,439	22.2	2,378	8.6	2,375	1.1	2,385	7.7	2,386

※ 分析母数はソーシャルメディア利用者数(ただし、DK、NAを除いて集計しているため項目ごとのN数は異なる)。

<概要7> ソーシャルメディアの利用状況 ~利用する際、悩んだり負担に感じること~

◆ ソーシャルメディアを利用する際に悩んだり負担に感じることは、「友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと」(24.4%)が最も多く、次いで「メッセージを読んだことがわかる機能(既読確認など)があること」(19.4%)、「ソーシャルメディア内の人間関係」(19.0%)が多い。

➢ ネット依存傾向「高」は、すべての項目において悩みや負担を感じる割合が高く、特に、「友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと」(依存傾向「高」40.5%、全体24.4%)、「ソーシャルメディア内の人間関係」(依存傾向「高」38.5%、全体19.0%)において高い。

【ソーシャルメディアを利用する際に悩んだり負担に感じること】

		ソーシャルメディア内の人間関係	頻りにメッセージを投稿しなければいけないような気がする	友だちのメッセージをチェックすること	自分の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいのか悩む	他人の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいのか悩む	悪意のあるコメントや荒らしがくること
全体		19.0%	4.6%	16.8%	12.3%	10.0%	9.1%
学年	1年生	19.3%	5.4%	18.8%	12.8%	9.8%	9.5%
	2年生	17.2%	4.1%	16.3%	11.5%	9.9%	8.7%
	3年生	20.5%	4.2%	15.7%	12.8%	10.3%	9.2%
性別	男	14.2%	4.5%	14.5%	9.3%	8.1%	8.4%
	女	22.9%	4.5%	18.5%	14.8%	11.4%	9.4%
ネット依存傾向	高	38.5%	10.7%	30.4%	22.9%	21.2%	21.8%
	中	22.0%	4.8%	18.9%	14.6%	11.7%	10.1%
	低	9.9%	2.6%	10.5%	6.9%	4.5%	4.9%

		見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる	メッセージを読んだことがわかる機能(既読確認など)があること	メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけないこと	友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと	自分の書いたメッセージに反応がないこと	あてはまるものはない	N
全体		15.4%	19.4%	15.3%	24.4%	16.0%	41.6%	6,942
学年	1年生	17.7%	20.5%	17.7%	25.1%	19.3%	40.5%	2,096
	2年生	14.8%	18.3%	14.0%	24.6%	14.7%	44.4%	2,425
	3年生	13.9%	19.6%	14.4%	23.5%	14.3%	39.7%	2,421
性別	男	11.2%	14.6%	12.1%	17.3%	13.3%	49.3%	3,135
	女	19.1%	23.4%	18.2%	30.6%	18.3%	35.0%	3,559
ネット依存傾向	高	27.6%	27.2%	25.9%	40.5%	34.0%	23.3%	467
	中	18.1%	22.5%	17.1%	27.3%	18.8%	34.0%	3,599
	低	8.1%	12.9%	10.3%	16.9%	7.7%	57.6%	2,194

※ 分析母数はソーシャルメディア利用者数(ただし、DK、NAを除いて集計)。

<概要8> 中学生のネット利用 ～ネット利用による生活への影響等～

◆ 「暇さえあれば、ネットを利用している」が50.4%、「自分はネット依存だと思う」も20.5%が該当している。

- ネット利用による生活への影響について、いずれの項目も、ネット依存傾向が高いほど割合が高い。依存傾向「高」は、「暇さえあれば、ネットを利用している」(92.0%)が9割を超え、「自分はネット依存だと思う」(71.9%)が7割を超えている。
- 特に、依存傾向「高」は、「ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている」(依存傾向「高」40.6%、全体7.4%)、「ネットのしすぎが原因で、試験に失敗したことがある」(依存傾向「高」35.2%、全体9.9%)、「ネットのしすぎが原因で、身体的な健康を損ねたことがある」(依存傾向「高」33.6%、全体7.9%)などネット利用による生活への影響の割合が全体の数倍高くなっている。

【ネット利用による生活への影響】

		ネットのしすぎが原因で、何度か学校に遅刻したことがある	ネットのしすぎが原因で、何度が学校を休んだことがある	ネットのしすぎが原因で、身体的な健康を損ねたことがある	ネットのしすぎが原因で、精神的に不安定になったことがある	ネットのしすぎが原因で、試験に失敗したことがある	ネットのしすぎが原因で、約束事をすっばかしたことがある
		(N)	(N)	(N)	(N)	(N)	(N)
全体		3.8% 10,396	1.4% 10,394	7.9% 10,382	6.2% 10,381	9.9% 10,373	5.8% 10,384
学年	1年生	2.6% 3,476	1.1% 3,474	7.0% 3,470	6.1% 3,472	10.1% 3,470	7.0% 3,472
	2年生	3.4% 3,577	1.3% 3,577	7.6% 3,575	5.9% 3,572	11.3% 3,569	5.7% 3,574
	3年生	5.5% 3,343	1.9% 3,343	9.1% 3,337	6.5% 3,337	8.2% 3,334	4.5% 3,338
性別	男	5.1% 5,063	1.8% 5,063	7.6% 5,056	4.2% 5,055	10.0% 5,052	7.4% 5,056
	女	2.1% 5,012	0.9% 5,012	7.9% 5,007	7.9% 5,007	9.5% 5,003	3.8% 5,009
ネット依存傾向	高	19.3% 535	9.9% 535	33.6% 535	32.4% 534	35.2% 531	28.8% 534
	中	4.3% 4,616	1.4% 4,616	10.3% 4,606	7.6% 4,608	14.4% 4,606	6.6% 4,610
	低	0.5% 4,303	0.1% 4,303	1.6% 4,303	1.3% 4,301	2.0% 4,300	1.3% 4,302
		ネットのしすぎが原因で、友だちを失ったことがある	お金を払って、ネット上のゲームやコンテンツ(音楽、アプリなど)を買ったことがある	暇さえあれば、ネットを利用している	ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている	自分はネット依存だと思う	今の時代、ネットを使って生活するのは当たり前だと思う
		(N)	(N)	(N)	(N)	(N)	(N)
全体		1.9% 10,348	33.7% 10,393	50.4% 10,378	7.4% 10,373	20.5% 10,351	66.3% 10,350
学年	1年生	2.1% 3,460	31.2% 3,475	47.6% 3,470	7.0% 3,463	18.8% 3,457	62.5% 3,456
	2年生	1.5% 3,560	34.6% 3,579	50.8% 3,571	7.6% 3,574	20.2% 3,565	67.6% 3,563
	3年生	2.2% 3,328	35.2% 3,339	52.8% 3,337	7.5% 3,336	22.5% 3,329	69.0% 3,331
性別	男	2.0% 5,038	42.8% 5,061	46.1% 5,058	7.1% 5,052	17.2% 5,044	62.4% 5,040
	女	1.6% 4,992	24.0% 5,011	54.6% 5,002	7.3% 5,004	23.7% 4,990	70.6% 4,995
ネット依存傾向	高	12.8% 532	54.9% 536	92.0% 536	40.6% 534	71.9% 533	89.5% 535
	中	1.9% 4,594	41.0% 4,613	69.9% 4,605	9.4% 4,603	29.7% 4,587	77.6% 4,600
	低	0.3% 4,286	21.8% 4,301	22.7% 4,298	1.0% 4,300	3.9% 4,296	51.1% 4,280

(注) 各項目について経験したり、感じたりしたことが「ある」と回答した割合。

※ 分析母数は有効回答数全体。

※ DK、NAを除いて集計しているため項目ごとのN数は異なる。